

一般研究 研究報告書

二年度研究報告書

研究課題

羽簞に関する基礎調査研究

日本野鳥の会会員

下坂 玉起

はじめに

本稿は二年度の報告なので、初年度の報告をふまえてまとめた。初年度には羽箒の基本的な情報を報告している。それを了解していないと、本稿は理解しにくいかもしれない。そのことをあらかじめご承知頂き、不明な場合は初年度の報告書をご参照頂きたい。

本年度の主たる発見と特記事項

●羽箒実測調査から

・片桐石州箱書羽箒¹（個人蔵）



石州箱書と言われる羽箒の初見。羽はほぼ中央に羽軸があるノガンの羽（中央尾羽か上尾筒か？）である。全長26.5cm、羽長19.0cm、柄長7.5cmで、古い羽箒サイズの「羽五寸、柄三寸」に近く、小ぶりの割に羽は長め、柄は短めである。仕立て方は、二本の羽軸を横に並べた上に一本を乗せた形で、断面を△に削った柄に挿している。そのことと柄の竹皮の端を強く捻って瘤を作るところは藪内流の仕立て方と同じである。しかし、竹皮は左巻きなのに端はその逆の右に捻るところや、竹皮撚紐で結び、掛け緒は別に作った輪を瘤の間に挟んでいるところは藪内流の仕立て方とは違う。下二枚の羽軸は内向きに交差しているため、羽先が狭まり、上の羽の横幅からはみ出さない。このように羽軸が交差している羽箒は他にはまだ見たことがない。

・片桐石州作羽箒（湯木美術館蔵）

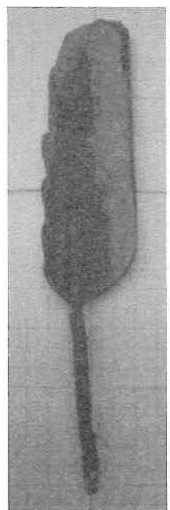


石州作と言われる羽箒はこれが初見でこれ以外まだ見つかからない。²多くの箱書と貼り紙から、この羽箒は、石州―大西閑斎―大口樵翁―大口如翁―鴻池家―湯木貞一―湯木美術館と、大阪の石州流と大阪の茶人に伝来した由緒正しいものであることがわかる。ここまで細かく伝来が書かれている羽箒は見たことがない。石州自作の羽箒に対する門人たちの深い思い入れが感じられる。

羽は左羽で、全長25.5cm、羽長16.5cm、柄長9.2cm、古い羽箒に標準的な小ささである。仕立て方は前述の石州箱書羽箒とはまったく違う。三本の羽軸を縦にまっすぐ重ね、左羽だから柄の竹皮は左巻き、端も左折り、竹皮撚紐で結ぶところまでは遠州流と同じ。しかし、紐の結び目を羽側は上、端側は左横と上下で違っているところは遠州とは異なるが、石州流の伝書の記述通りで、伝書を裏付けている。

興味深いのはその羽の重ね方で、羽の左弁はぴったり揃っているが、右弁はきれいに3mmずつ下の羽がはみ出すように、下に行くほど幅の広い羽が使われている。三枚共ぴったり揃える遠州流の仕立て方とは意図的、決定的に違っている。羽が揃っているように見せたかったなら、一番大きな下の羽を一番上にすることもできたので、あえて段々にずれる重ね方を選んだのだとしたら、そこに石州の美意識があったのかもしれない。いずれにしても、大変美しい羽箒である。

・小堀遠州の歌銘付羽箒『増鏡』（湯木美術館蔵）



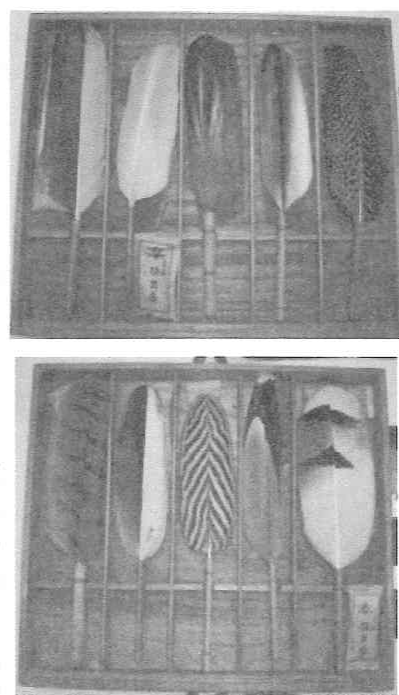
遠州は羽箒にも「截断紅塵 水一溪」「紅塵截断」などの銘をつけているが、歌銘の羽箒は、これが初見で、今のところ遠州以外を含め唯一である。遠州は羽箒にも茶入や茶杓同様、歌銘をつけていたことになる。羽箒も雅びな茶道具として大切に扱っていた証であろう。

蓋裏には「あさなぐ余所にやハ見るます鏡むかひの岡のつもる白ゆき」と書かれている。遠州には『増鏡』という⁴銘の茶入が二つもある。よほどこの銘が気に入っていたのだろうか。

羽は、下二枚は焦げ茶一色で上の羽と景色は違うが、三枚ともびったり同寸同形なのはまさに遠州仕立てである。全長24.3cm、羽長15.0cm、柄長9.0cmなのも「羽五寸、柄三寸」の遠州の標準サイズである。仕立て方も右羽なので竹皮を右に巻き、端も右に折る。折ったところを細くしてすっきりさせることや、竹皮撚紐で右横中央で結ぶことは遠州仕立ての定型である。竹皮の巻き留めは右上になっているが、それは竹皮が縮んだためだろう。そのため隙間があき、下地の紙巻きが見えている。羽が自然に右に曲がり上下にもアーチを描いているのは、当時はまだ羽を熱で加工してまっすぐにする技術がなく、自然の形のままだったからと考えているが、時代を経て元の形に戻った可能性もないとは言えない。左縁がフリルのように波打っているのも美しい。

・十種羽箒（湯木美術館蔵）

十種の鳥の羽箒を五本ずつ二段重ねの箱に納めた羽箒十本セットである。このような羽箒のセツトはこの他には知らない。羽箒の幅に合わせてつけられた仕切りの間の羽の下に、それぞれの鳥名が書かれている。まるで羽箒見本のようだ。



写真：箱に書かれている鳥種【○内は同定された鳥類学的鳥名】上段は、青鸞（セイラン雄）、大鳥（種不明）、青鸞（アオサギ）、桃花鳥（トキ）、鶴（タンチョウウカ？）、下段は、野（ノカン）、かもめ（カモメ）、白冠鳥（ハツカン）、鷹（種不明）、鵲（ワシミニスズク）

どれも羽五寸、柄三寸前後の古来の寸法。柄が丸い二本以外は遠州仕立て。皆美しく、これだけ揃っていると壮観である。伝来は不詳だが、湯木氏が入手した時にはすでにこの形になっていたという。一目で見渡せるので選ぶのにも便利だが、眺めるだけでも楽しい。

・徳川美術館の文房具の羽根と、それに酷似する茶の湯の羽箒

意外にも徳川美術館には茶の湯の羽箒はなく、あるのは、文房具の羽根三本だけである。そのうちの一本は尾張徳川家初代義直の鉄刀木の大机に付属すると伝わり、徳川美術館の文房具飾りを代表する道具のひとつとして、図録にも載っている。他の二本も同じ大机の文房具飾りとして伝わるが、三本とも、これまで拝見した茶の湯の羽箒に大変よく似ているものがあつた。徳川美術館は撮影不可なので、それとよく似る茶の湯の羽箒の写真を用い、両者の特徴を示すことにする。

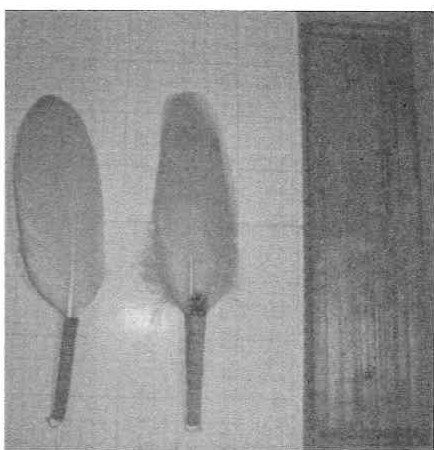
写真：『かさね津る』（福田行雄氏蔵）



（一本目）徳川美術館の図録に掲載されている文房具の羽根は、上掲写真の『かさね津る』という茶の湯の羽箒と瓜二つである。相似形で徐々に大きくなっていく羽を多数重ね、その上に白鷺の糸状の飾り羽を乗せ、一番上中央に小さい羽根をつける。他には見たことが

ないその独特の羽根の次第、柄の竹皮の巻き方、端の始末、竹皮撚紐の結び目を上と下に違えているところも全て同じである。こんなに珍しいものがここまでそっくりになることは偶然ではありえない。この『かさね津る』は名古屋の近代数寄者・森川如春庵旧蔵と伝わる。彼なら徳川美術館のこの羽根を見る機会は十分あつただろう。尾張徳川家初代の文房具の羽根を模して自分オリジナルの茶の湯の羽箒を作るアイデアは素晴らしい。名古屋人ならではの尾張徳川家への思いもあつたかもしれないが、羽箒にも思い入れがあつた証だろう。このことが茶会記や書状などで裏付けられたら、羽箒史上、大変興味深い逸話となるろう。

写真…森川如春庵旧蔵『つる』羽箒（個人蔵）
右の羽箒は徳川美術館の〈二本目〉に似る。
左の羽箒は尾州久田流の独特の仕立て方。

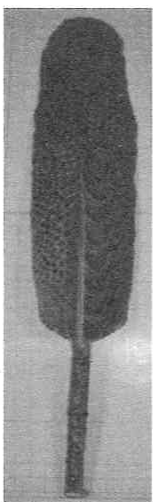


〈二本目〉この文房具の羽根も一本目と作りは似ているが、羽根が白いのと飾り羽が違う。この羽根に似ているのは、『森川如春庵の世界』展に出品された如春庵旧蔵『つる』羽箒二本のうちの一本で、上掲写真の右側の羽箒である。違うところもあるが、特殊な羽根の次第やカーブの仕方は大変よく似ている。茶の湯の羽箒にはない仕立て方なので、写した可能性は高い。如春庵旧蔵品の箱蓋裏には、益田鈍翁が「庭内の鶴の羽をもつて製す 鈍」と記し、箱の内底には如春庵が「大正十一年到来如春庵主人」と書いている。このことから図録には「益田鈍翁が自邸の庭にいた鶴の羽根を使って作った羽箒。大正十一年（1922）に如春庵のもとに届いた」と書かれている。近代数寄者が自邸で飼っている鶴の羽根で作った自作羽箒を贈呈したとなると、この羽箒は右記のように、徳川美術館の文房具の羽根を模した可能性が高い。とすると、材料は鈍翁の自庭の鶴の羽であっても、はたして鈍翁が自作したものなのだろうか。鈍翁が羽箒を自作していたのであれば非常に興味深い、この羽箒の現所蔵者は、違う説を話している。その話は、次の如春庵の羽箒の項で触れる。

〈三本目〉この文房具の羽根だけは、なぜか茶の湯の羽箒の仕立て方になっている。これは先述した石州作羽箒（湯木美術館蔵）と羽は違うが、仕立て方はかなり似ている。寸法の違いも五冒以内で誤差の範囲であろう。右羽（文房具・徳川美術館蔵）と左羽（石州作・湯木美術館蔵）なので、竹皮の巻き方や折り方は左右対称。竹皮撚紐の結び目は、上と下、上と横で多少違うが、同じ向きに揃えないのは共通している。特に、二本とも内弁（鳥にとって内側、腹側）はびったり揃っているが、外弁は下の羽になるほど等間隔に徐々に大きくなっているところはまったく同じである。このような揃え方はこの二本以外見ていない。両者に関係があったとしたら大変興味深い。

・森川如春庵と尾州久田流の羽箒

写真…如春庵旧蔵の青鸞羽箒（名古屋博物館蔵）



如春庵旧蔵の青鸞羽箒（名古屋博物館蔵）（上掲写真）と、先述の鈍翁が如春庵に贈ったという二本の鶴羽箒の残るもう一本（右の二本組の写真の左側）は、どちらもこれまで見たことがない珍しい仕立て方である。一本の羽根の上に二本を並べ、柄の断面が逆三角形▽になっている。これは如春庵の尾州久田流の羽箒の仕立て方だそう。逆三角形▽だと置いた時安定が悪そうだが、尾州久田流の下村瑞晃お家元によると、非常に持ちやすいそうである。これとは逆の、二枚横に並べた上に一枚を置き、柄の断面が三角形△になる羽箒は、利休が創始したと言われ、古い羽箒に時々ある。その形は今でも藪内流に継承されている。その逆の▽は今のところ尾州久田流にしか見当たらず、非常にユニークである。

ということで、鈍翁が如春庵に贈ったとされる二本の鶴羽箒は、尾張徳川家の文房具の羽根に似ているものと、尾州久田流のものであることがわかった。二本ともふつうにはない仕立て方だが名古屋と如春庵には縁が深い仕立て方である。現所蔵者がおっしゃるように、「鈍翁から頂戴した羽根を用いて如春庵が自分の趣向で作り（作らせ）、その箱書を鈍翁に頼んだ」と考える方が自然のようにも思うが、いずれにしても近代数寄者の羽箒への思い入れと、羽箒を介在させた交流を示すよい資料である。

・名古屋人好みの竹皮撚紐

柄を巻く竹皮を結ぶ紐には、竹を撚った紐と紙を撚った紐（こより、元結、水引）があり、流派などにより違っていたのだが、名古屋では流派や仕立て方に関わらず、竹皮撚紐が非常に多い。不思議に思ってた名古屋の茶人に尋ねたところ、白い紙撚りは名古屋では好まれないと即答された。

名古屋の数寄者の好みだったのだろうか。京都の羽箒師と名古屋の羽箒師では作り方が違うことは聞いていたが、羽箒の好みにも地域性があるようだ。

・柄を巻く真つ白な竹の皮

古い羽箒には、柄を巻いている竹皮が無班で真つ白く美しいものがよくある。それは京都の羽箒師・四代杉本鳳堂氏によると、現在では入手不能になった竹皮で、それにはカブジロとモトジロの二種類あり、カブジロはトウモロコシの皮のように薄く、柔らかすぎて羽箒には向かないが、振り出しの蓋を巻くのに使い、モトジロが羽箒には最適だと言う。この竹の種類を「専門家に尋ねたところ、その名も「カシロダケ（皮白竹）」という福岡八女地方特産の特殊な竹である可能性が浮かんできた。「カシロダケ」の竹の皮は、しなやかで細工に最適なため、京都などで高値で売れ、有馬藩のご禁制品となったほど重要な交易品だったという。しかし、今では¹³現地でもわずかに残るだけとなり、入手困難となる。その竹皮が羽箒に使われていた真つ白な竹皮であるかは、今のところ、それ以外見当たらないとしか言えない。しかし、いずれにしてもふつうの竹皮ではないことは確かである。茶人は羽箒に巻く竹皮にも、美しく特別な皮を厳選していたのだろう。



写真・カシロダケ（写真提供…富士竹類植物園）

・一ツ羽の桑柄と小刀・灰匙・火箸の柄の共通性

山田宗偏作の一ツ羽羽箒（宗偏流不審庵蔵）の桑柄は、非常に細い針金を巻いて羽をとめている。その桑柄は、宗偏作の「指柯（さすが）」や「降鞘（さげさや）」の小刀の柄と似ていると言う。宗偏著『利休茶道具図絵』の「指柯」の項に「小口より二分のところを針金で巻く」「桑の木色付」と書かれているが、それは宗偏の桑柄と同じである。そこで宗偏作の降鞘の一つを調べさせて頂いたところ、柄を丸くなめらかに削り握りやすそうなどころは同じだが、刃を両側から挟む形なので、羽を穴に差し込む羽箒とは構造が違っていた。

桑柄に細い針金を巻き、その両端を針金がやつと通るごく小さい穴から柄の中に入れるという恐ろしく繊細な作業は、宗偏作の桑柄では針金が錆びていて確認できなかったが、宗偏作を宗偏流五世家元・山田宗俊が写した桑柄、飛来一閑の一ツ羽桑柄、駒澤利斎の一ツ羽桑柄ではどれも同様に繊細に針金を巻いていた。利休形と言われる灰匙、炉用の桑柄火箸にも同じ仕立て方のもが多くある。

桑柄の削り方には微妙な違いがあり、羽側は丸かったり六角に面取りされていたりするが、先端に行くにつれ扁平の八角形になっているものが多い。端の断面の年輪は斜めになっているものがほとんどで、それは専門家によると「木の収縮による割れや反りに配慮して『四方桎』（どの面も桎目）に木取っている」のだという。一ツ羽の桑柄も、職人の知恵と技の結集であることがわかる。

●文献調査から

・青木宗鳳著『¹⁴羽箒一件』（今日庵文庫蔵）

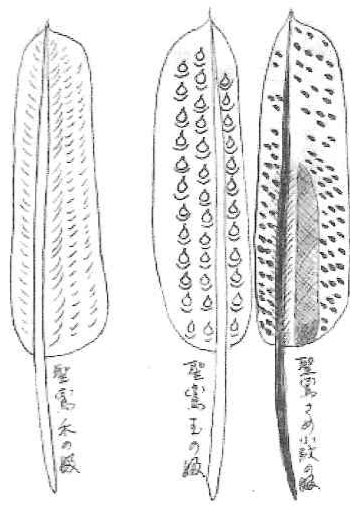
やつと出会えた目下唯一の羽箒専門書である。江戸中期の大阪の遠州流の茶人・¹⁵青木宗鳳が著した「浪華文庫」という膨大な茶書群の中の一冊で、詳細かつ大量の羽箒情報が書かれている。

「羽箒は元来数寄人が結うもので、結び方を習うものだ」という言葉に始まり、羽箒の寸法や呼称は図解されているので分かりやすい。

仕立て方も大変具体的である。何度も「毛（羽のこと）をもぎ取る」という言葉が出てくるので、やはり「もぎあけ」の「もぎ」は羽を「もぐ」から来ていたのだと改めて確信が持てた。

「聖（青）鸞」は「上品（上等、高級品）」であるとし、「さめ小紋」「玉」「禾」の三本の羽の図が描かれている。この「玉」の図のように宝珠（玉だからか？）のような模様がびっしりついて

図：『羽箒一件』の「聖鸞」の項の図を筆者模写



昔から青鸞と大鳥は別格だったのだろうか。大鳥は「俗に伽藍鳥という鳥」だとしているが、伽藍鳥はペリカンのことを指す。大鳥の鳥種はまだ特定できないがペリカンの羽に似ているようでもある。

『羽箒一件』には、紅鸞、黄鸞、野厂、丹頂、黒鸞、白鸞、単鸞、白鷗、鴻鶴、志摩ふく路、南部ふくろ、鷲、熊鷹、八熊、とき、など多種の羽箒について書かれている。

首をひねるような記述もあるので、全面的に信用することはできないかもしれないが、それでも、これほどの羽箒の著作は他に見つかってない。翻刻されていないので、私にはどうにか一部を解読するのがやっとなのである。羽箒の飾り方などまだまだ興味深いことがたくさん書かれているので、いつかしっかり全文を解読してみたい。

まとめ

本助成と多くの方々のご協力のお陰で、この二年間で思っていた以上の羽箒や伝書、標本を調べることができた。(その内、ある程度時代があると思われる羽箒三六八本の調査データを、非常に小さな字で恐縮だが文末に添付した。)その結果、茶人や流派による好みの相違や変遷が分かってきた。本調査以前は、「羽箒は使い捨て」「古い羽箒は残っていない」と思われ、ほとんど何も分かっていなかったことを思えば、成果はあったと思っている。残念なのは、現存しているのが分かっていながら、ご縁がなくて調べられなかった羽箒や伝書、標本がたくさんあることである。まだ存在を知らない羽箒もたくさんあるはずなので、これからも少しずつ調査は続けていきたい。集めたデータの解析はまだこれからである。じっくり様々な切り口で分析し、今後に生かせるようにしたい。そして羽箒そのものも将来に残せるよう手だてを講じていけたらと思っている。

謝辞

本年度も昨年度に引き続き、本当に多くの方々にお世話になりました。主な方々だけでも軽く五十人(団体)は超え、匿名希望の方も多いため、お名前を記すのは控えさせていただきます。皆さまのご協力がなければこれだけの調査はできませんでした。本当にありがとうございます。

註

¹内箱の蓋表には「羽ほうき 箱」、その裏には「片桐石州公御箱書付 奥八郎兵衛殿御口(所持か?)」、外箱蓋表には「片桐石州公箱書付 野厂羽箒」と書かれている。奥八郎兵衛は代々襲名されているので何代かは不明。近代の八郎兵衛氏は、皇室に出入りしていたとのこと、このような羽箒を所有していても不思議ではないようである。誰が石州と極めたかは不明。後の手であるとする方もいらつしやるが、石州の箱として伝わっている。

²元の箱の蓋と思われる板に羽箒が乗せられ、その表には「片桐石見守 三羽」、裏には「大西宗順手跡」、内箱蓋表には「片桐石州公造鸞羽箒」、蓋裏の貼り紙の下には「大西閑斎宗順ヨリ伝来」、その上の貼り紙には「片桐宗閑居士製作 鸞三羽箒 閑居士自製口閑斎江被下後施閑斎宗順夕陽菴主樵翁江被而為家珍 笥蓋表裏先師樵翁(以下不明) 養浩斎昌斎子誌之保教(花押)」、内箱底

には閑斎、樵翁、如翁の解説が書かれた紙が貼られ、外箱蓋裏には「片石州宗閑侯作羈羽ほうき箱 大口樵翁 張帑 同如翁 宗泉（花押）」とあり、内箱蓋の表裏は 大口樵翁筆、貼り紙は大口如翁筆、それを本庄宗泉が極めていることがわかる。

大西閑斎宗順は、石州の家臣で石州流大西派の開祖。大阪で大西派を普及。大口樵翁は大西閑斎の高弟で娘婿、石州流大口派の開祖となり大阪在住。大口如翁は樵翁の子で大口派二世。本庄宗泉は古石州流十四世。

³内箱蓋表には「増鏡」、蓋裏には「あさなく余所にや八見るます鏡むかひの岡のつもる白ゆき」と書かれている。歌は『続古今集』の西園寺實氏の和歌のようだが、元歌は「むかひの岡に」となっている。「むかひの岡の」と「の」の字と読んだのが私の間違いでなければ、遠州が多少アレシジしたのだろうか。

⁴銘は同じ『増鏡』だが、添えられた和歌は皆違う。

⁵文房具の羽根とはどういうものか、どこが茶の湯の羽箒と違うのか知りたいと思ったことと、とりあえず徳川美術館のものなら調査しておこうと考えたお陰で、この思わぬ発見となった。

⁶徳川美術館編集『徳川美術館の名宝』（平成十二年二月十日改訂版）の「大名の書斎」の130～131ページに、「大机文房具飾り 一具」として、硯や筆架、水注、筆などと共に、錦の机掛けの上の一番左端に置かれている。

⁷福田行雄氏（古筆愛好家・料紙作家）所蔵。森川如春庵旧蔵と伝わる。独特の水玉模様の覆い紙は如春庵のものと言われている。

⁸『森川如春庵の世界』平成二十年（2008）名古屋博物館、三井記念美術館

⁹『森川如春庵の世界』展図録の39の二本の内、右側の羽箒。

¹⁰『森川如春庵の世界』展図録にはさらに同年「大正十一年（1922）」十一月十日岡谷真愛（十代岡谷惣助）を正客とする第一回敬和会に『羽箒 鶴』が使われており、届いた鈍翁の羽箒を早速用いたものと思われる」と書かれている。

¹¹福岡県森林林業技術センター・浜地秀展氏、富士竹類植物園・多賀直人氏

¹²延応元年（1239）に現在の福岡県星野村で発見された八女地方特産のマダケの変種

¹³プラスチック製品や安い外国製品のために需要が減った時に、ちょうど一斉に花が咲いて枯れたため、カシロダケを伐採して林業に転換したため。

¹⁴山田哲也氏は本書の表題を『羽箒之件』としているが、原本を拝見したところ、私には『羽箒一件』と読めるので、そう表記する。

¹⁵青木宗鳳（元禄二年1690～明和二年1765）。「浪華文庫」の研究者・山田哲也氏は青木宗鳳を「茶書によって家元を目指した茶人」と評す。宗鳳は茶の湯に関わるあらゆることを書きまとめたが、公刊せず、秘伝として弟子に伝えたただだったので、広まらなかったという。（山田哲也『茶書によって家元を目指した茶人青木宗鳳』―浪華文庫の考察を通して―『茶道学大系 第十巻 茶の古典』

淡交社 平成十三年発行）

¹⁶「さめ小紋」は雄の初列風切羽、「玉」は雄の次列三列風切羽、「禾」は雄の尾羽か雌の風切羽を描いているのではないかと思う。

羽衣舞楽関連データベース一覧表

名称	伝来	現所蔵者	作者	箱書・箱	時代	鳥題	羽衣数	羽左右	羽の部位	羽袖の直長	柄の断面形	柄の端の形	全長	羽長	羽長	もぎあひ竹皮裏紋	竹皮裏紋	竹皮裏向	巻止位置	端始末法	紐系材	縫目位置	舞袖	備考
1 大鳥羽書	小堀家	野村美術館		遠州箱書・了仲権	170	ツル?	3	右羽	次羽風切	曲	軸まま	{	240	180	80	無	無班	左巻	左下1/3	左折	細竹皮縫	左中央	無	羽びったり前う
2 端本白 式封	豊州最經	野村美術館		端本箱書・了意権	170	マナツル?	3	右羽	次羽風切	曲	軸まま	{	250	180	90	無	少班	右巻	右中央	右折	竹皮縫	右中央	無	了意権
3 端本白 式封	豊州最經	野村美術館		端本箱書・了意権	170	マナツル?	3	左羽	次羽風切	曲	軸まま	{	250	180	90	無	少班	左巻	左中央	左折	竹皮縫	左中央	無	了意権
4 青藍三ツ羽	赤星家	野村美術館		箱は飛来一両作		セイランの	3	右羽	三羽風切	直	軸まま	{	305	215	90	無	少班	左巻	左上1/3	左折	竹皮縫	左中央	無	黒塗箱朱字
5 端三羽	朽木重遠	野村美術館		森川如香庵の覆紙		ツル?	3	右羽	次羽風切	直	軸まま	{	240	180	80	無	無班	左巻	右中央	右折	竹皮縫	右中央	無	3か所貼
6 端三羽	朽木重遠	野村美術館		森川如香庵の覆紙		ツル?	3	左羽	次羽風切	直	軸まま	{	250	155	95	無	無班	左巻	左上1/4	左折	細竹皮縫	下中央	無	ウラ?
7 断絳紅藍水一須	小堀家	藤田美術館		遠州箱書	170?	アオサギ?	3-幾羽	右羽	次羽十幾	直	直	{	280	155	80	無	無班	右巻	下折	下折	竹皮縫	下中央	無	灰色絨羽
8 断絳紅藍水一須	小堀家	藤田美術館		遠州箱書	170?	アオサギ?	10-幾羽	左羽	次羽十幾	直	直	{	245	175	70	無	無班	左巻	下折	下折	竹皮縫	下中央	無	縞藍色絨羽
9 断絳紅藍水一須	小堀家	藤田美術館		遠州箱書	170?	アオサギ?	多数	右羽	初〜次羽	左曲	直	{	245	125	92	無	無班	左巻	下折	下折	竹皮縫	下中央	無	縞藍色絨羽
10 玄藍三羽	佐吉	藤田美術館	金森宗和作	関原中待進上	170	ナベツル?	3	左羽	次羽風切	左曲	直	{	255	145	100	無	少班	左巻	左折	左折	竹皮縫	右中央	無	銘「断絳紅藍水一須」
11 端三羽	松永耳庵	藤田美術館		「松永重」印貼紙		コウノトリ	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	240	174	90	無	無班	左巻	右中央	右折	竹皮縫	左中央	無	白糸は後補修?
12 端三羽	松永耳庵	藤田美術館		「松永重」印貼紙		ツル?	3	左羽	初〜次羽	直	直	{	250			無	無班	左巻	右中央	右折	竹皮縫	左中央	無	白糸は後補修?
13 端三羽	シカゴ万博で使用	東京国立博物館		無	明治190	ツル?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	310	215	78~90	無	多班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紙紐輪
14 (個人) 端三ツ羽	個人蔵		青笛作		200前半	イヌワシ?	3	左右中央	三羽風切	上下曲	直	{	252	185	88	無	無班	右巻	右中央	右折	竹皮縫	右中央	無	箱入れ替わったか?
15 端三羽 一双	個人蔵					イヌワシ?	3	右羽	次羽風切	曲	直	{	285	194	78~94	無	無班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	竹皮縫?
16 端三羽 一雙	個人蔵					イヌワシ?	3	左羽	次羽風切	曲	直	{	325	234	84~92	無	少班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	太紙縫?
17 青藍三ツ羽	個人蔵					セイランの	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	380	288	100	無	無班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紐ずれる
18 野三ツ羽	個人蔵					セイヤンの	3	左羽	三羽お多	直	直	{	308	213	73~90	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	こちらが端か?
19 コウツと称す	個人蔵					イヌワシ?	3	右羽	初羽風切	直	直	{	335	235	95	無	少班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	
20 孔雀飾羽付	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				クジャク	4	左右横込	次羽風切	直	直	{	500	375	125	無	多班	左巻	右中央	右折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
21 座席	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				飾クジャク	3+幾羽羽2	右左右	初羽風切	上下曲	直	{	410	290	115	無	多班	左巻	下中央	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
22 小羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	3	左羽	次羽風切	直	直	{	125	85	40	無	無班	左巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
23 小羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	3	右羽	次羽風切	直	直	{	290	200	92	不明	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
24 木柄一羽羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	3	右羽	次羽風切	直	直	{	303	195	107	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
25 羽のみ一枚	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	1	右羽	次羽風切	直	直	{	200	羽井長180	欠損	不明	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
26 羽のみ一枚	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	1	右羽	次羽風切	直	直	{	305	205	105	無	多班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
27 三羽お多	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				マナツル?	3	右羽	初〜次羽	曲	曲	{	302	205	98	無	多班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
28 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	次羽風切	曲	曲	{	305	218	90	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
29 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	次羽風切	曲	曲	{	283	195	90	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
30 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				イヌワシ?	3	右羽	次羽風切	直	直	{	310	210	98	無	無班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
31 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	280	173	88	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
32 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	240	152	88	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
33 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				コウノトリ	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	290	192	97	無	多班	右巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	紺紐輪
34 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	238	152	85	無	多班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
35 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	左羽	初〜次羽	直	直	{	242	182	80	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
36 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	305	205	100	有	多班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
37 端三羽	土佐山内家	土佐山内家宝物資料館				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	374	273	100	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
38 丹頂一ツ羽	香対	土佐山内家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	350	258	92	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	紺紐輪
39 青藍三ツ羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	270	172	98	不明	少班	左巻	ボロボロ	不明	竹皮縫?	3か所値	不明	貼紙には端
40 青藍三ツ羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	410	287	125	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	貼紙には端
41 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	350	241	108	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	貼紙には端
42 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	250	155	95	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	貼紙には端
43 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	320	229	91	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
44 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	268	188	80	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
45 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	306	217	88	無	少班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
46 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	325	233	92	無	無班	左巻	下折	下折	太紙縫	下中央	無	貼紙には端
47 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	380	285	90	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
48 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	373	263	90	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
49 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	350	250	95	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
50 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	338	243	90	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
51 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	333	237	91	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
52 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	332	240	92	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
53 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	328	240	92	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
54 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	291	200	91	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
55 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	328	235	80~90	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
56 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	303	207	91	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
57 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	370	280	110	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
58 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	237	184	73	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
59 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	240	147	88	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
60 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
61 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
62 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
63 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
64 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
65 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
66 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無	無班	右巻	右中央	右折	太紙縫	右中央	無	貼紙には端
67 端三羽	香対	加州本多家				ワシ?	3	右羽	初〜次羽	直	直	{	243	150	93	無								

218	白鷺羽弄 弉對	上田流和風堂	高橋丹下作	小堀藤蔭箱書		1	右羽	次羽	曲	芦柄	188	88	107	曲	無班	左巻	左下へ真下	端切下折	紙撚紐	下	中央	無	中羽短	左にかしぐ	三本セット	入る場所なし
217	大久保宗保の羽弄	井伊直虎から拝授	堀木舎・大久保家	大久保宗保旧蔵	イヌワシ?	3	右羽	次羽	直		318	225	92	曲	無班	右巻	右中央	端切下折	紙撚紐	下	中央	無	三枚共タンチョウ羽一枚と同定される		外并合す	
218	たむてふ羽弄	個人蔵		小堀宗明箱書	タンチョウ	3	右羽	次羽1番	直		250	185	85		無班	右巻	左中央	左折	竹皮撚紐	下	左	無				
219	たむてふ羽弄	個人蔵		小堀宗明箱書		3	左羽		直		251	185	88		無班	右巻	左中央	左折	竹皮撚紐	下	左	無				
220	鶴み羽	個人蔵			ハクチョウ?	20〜30	右羽	ツボ羽	直		294	230	124		無班	多班	右巻	右中央	黒大系	下	左	紙撚紐	結び目位置様々			
221	野ノ 左右	個人蔵			ノガン	3	左羽	三羽お多々	直		282	187	95		無班	無班	右巻	右中央	端切下折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
222	野ノ 左右	個人蔵			ノガン	3	左羽	三羽お多々	直		295	205	95		無班	無班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
223	雀三羽	丹羽與三右衛門	個人蔵		セイランの	3	左羽	初羽風切	直		344	250	94		無班	無班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
224	青鷺露降	個人蔵			セイランの	3	左羽	尾羽	やや曲		357	255	96		無班	無班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
225	青鷺露降	個人蔵			セイランの	3	右羽	尾羽	やや曲		380	280	96		無班	無班	右巻	下	下	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
226	インコ	個人蔵			インコ類	3	右羽	次羽風切	直		285	187	103		無班	無班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
227	インコ	個人蔵			インコ類	3	左羽	次羽風切	直		295	188	105		無班	無班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
228	鵜羽弄	大西家	大西清右衛門美術館	飛来一関作	マナヅル?	3	右羽	初羽風切	直		325	225	100		無班	多班	右巻	下	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
229	鵜羽弄	大西家	大西清右衛門美術館	飛来一関作	マナヅル?	3	左羽	初羽風切	直		328	228	100		無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
230	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		コウノトリ	3	右羽	次羽風切	直		325	233	91		無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
231	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館			3	右羽		直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
232	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館			3	左羽		直						無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
233	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	やや曲						無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
234	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
235	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
236	端綿毛羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	左下	左折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
237	鵜羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		イヌワシ?	7	左羽	肩羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
238	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		イヌワシ?	3	右羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
239	時代羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		イヌワシ?	3	左羽	次羽風切	上下に曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
240		大西家	大西清右衛門美術館		タンチョウ?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
241		大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	左羽	三羽?剣?	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
242	一枚小羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
243	一枚小羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
244	網込小羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
245	鵜羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
246	鵜羽弄	大西家	大西清右衛門美術館		マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
247	笠ノ羽弄	左右	金沢市民	中村記念美術館	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
248	笠ノ羽弄	左右	中村記念美術館	即中箱書	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
249	玄鶴三ツ羽	個人蔵		小堀藤蔭箱書	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
250	時鳥羽弄	個人蔵		「時鳥羽弄」と箱書	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
251	わし之羽	個人蔵		時鳥羽弄(中?)	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
252	七面鳥	個人蔵		小堀宗明箱書	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
253	鷹の羽	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
254	姉羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
255	小羽	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
256	青鷺	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
257	山雉	山雉弄賀子夫人?	山雉弄賀子夫人?	山雉弄賀子夫人?	マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
258	三ツ羽	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
259	青鷺終羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
260	青鷺終羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
261	白鳥座弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
262	白鳥座弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
263	白鳥座弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
264	白鳥座弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	尾羽	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
265	羽ばうき	奥八郎兵衛?	片桐石州箱書		マナヅル?	3	左羽	ツボ羽	下に大曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
266	海三羽 弉對	松澤?	遠州長男宗康箱書	170	マナヅル?	3	左羽	次羽風切	上下曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
267	海三羽 弉對	松澤?	遠州長男宗康箱書	170	マナヅル?	3	左羽	次羽風切	上下曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
268	海三羽 弉對	松澤?	遠州長男宗康箱書	170	マナヅル?	3	左羽	次羽風切	上下曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
269	大鳥羽弄	弉對	内緒遠州、外緒幸明	170	マナヅル?	3	右羽	次羽風切	きれいに曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
270	七面鳥	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
271	野雁羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
272	野雁羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
273	野雁羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	右羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
274	野雁羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
275	鵜羽弄	左右	北松園		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
276	鵜羽弄	左右	北松園		マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
277	セイルン羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
278	セイルン羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
279	セイルン羽弄	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
280	海三羽 弉對	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
281	海三羽 弉對	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
282	海三羽 弉對	個人蔵			マナヅル?	3	左羽	次羽風切	直						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
283	大鳥羽弄	弉對	小堀宗康箱書	170	マナヅル?	3	右羽	次羽風切	曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
284	大鳥羽弄	弉對	小堀宗康箱書	170	マナヅル?	3	右羽	次羽風切	曲						無班	多班	右巻	右中央	右折	紙撚紐	下	紙撚紐	端切下折			
285	大鳥羽弄	弉對	小堀宗康箱書	170	マナヅル?	3	右羽	次羽風切	曲																	

326	青鷲三ツ羽一双	個人蔵	南斎作	セイランみ	3	右羽	初列風切	直	△大	322	232	90	無	多班	左巻	下	右膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
327	青鷲三ツ羽一雙	個人蔵	南斎作	セイランみ	3	左羽	初列風切	直	△大	325	235	90	無	多班	左巻	下	右膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
328	玄鶴三ツ羽	個人蔵			3	左羽	次列風切	直	△大	280	185	95	無	多班	右巻	右中央	右膝下折	竹皮襷紐	右中央	竹皮襷紐
329	鷹三ツ羽	個人蔵	南斎作	カササギ	3	左羽	初列風切	直	△大	255	150	105	無	少班	右巻	下	まっすく	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
330	かきり記 羽書	個人蔵	南斎作	カササギ	3	左羽	尾羽	直	△大	298	103	95	無	少班	左巻	左膝下1/3	左折	竹皮襷紐	左中央	竹皮襷紐
331	白孔雀	個人蔵	南斎作	朝香宮下賜白孔雀ミ	3+	右羽	次列風切	直	△大	285	185	105	無	少班	右巻	右膝下1/3	右折	竹皮襷紐	右中央	竹皮襷紐
332	ホロホロ鳥	個人蔵	南斎作	八十四翁南斎	3	右羽	次列風切	直	△大	280	188	92	無	少班	右巻	下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
333	青鷲	個人蔵	南斎作	八十四翁南斎	3+	右羽	アオサギ	直	△大	280	190	90	無	多班	右巻	右膝下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
334	大白鷲三ツ羽	個人蔵	南斎作	ダイサギ?	3+	右羽	次列風切	直	△大	298	208	90	無	少班	右巻	右膝下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
335	大白鷲三ツ羽	個人蔵	南斎作	ダイサギ?	3+	左羽	次列風切	直	△大	297	202	95	無	少班	右巻	右膝下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
336	がん	個人蔵	南斎作	ゴオヒシクイ?	3	右羽	初列風切	直	△大	270	175	95	無	少班	右巻	右膝下1/4	右折	竹皮襷紐	右中央	竹皮襷紐
337	ごいまぎ	個人蔵	南斎作	ゴイサギ?	3	右羽	次列風切	直	△大	245	155	90	無	少班	右巻	右膝下1/3	右折	竹皮襷紐	右中央	竹皮襷紐
338		個人蔵		クマタカ?	3	左羽		直	△大+直角	325	223	102	無	少班	左巻	左下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
339	大机付鷹羽根	徳川美術館	敬公徳川義直使用	江戸時代	12枚以上	右羽	風切+飾羽	曲	○	230	145	90	2	多班黒い	左巻	左下1/4	下折	竹皮襷紐	上、下	竹皮紐二重 文房具
340	大机付鷹 三ツ羽二本	徳川美術館			多数	右羽	肩羽?	曲	○	227	150	87	2	多班	左巻	左下	下折	竹皮襷紐	上、下	竹皮紐二重 文房具
341	大机付鷹 三ツ羽二本	徳川美術館			3	右羽	次列風切	曲	○	250	180	90	2	無班白	右巻	右中央	右折	竹皮襷紐	上、下	無
342	大鳥羽書 右	昭和美術館			3	右羽	次列風切	上下に曲	○	298	213	82	3	無班黒い	右巻	右中央	右折	竹皮襷紐	右中央	竹皮不撚紐 達州型で○掛け補
343		昭和美術館		スライド蓋	3	右羽	次列風切	直	○	275	185	92	無	少班	右巻	右中央	右折	竹皮襷紐	右中央	スライド蓋箱
344		昭和美術館			3	左羽	三列風切	やや曲	○	383	257	108	5	幾?				針金縛落ち		
345		昭和美術館	飛来一團作	ツル類剣先	3	右羽	三列風切	やや曲	○	381	281	98	14	幾?				針金完全		
346		昭和美術館	飛来一團作	ツル類剣先	3	右羽	三列風切	やや曲	○	303	207	93	無	無班	左巻	下	左膝下折	紙襷紐	下	紙襷紐
347		昭和美術館		ノガン	3	左羽	次列風切	直	△大	305	212	95	5	(欠?)少班	右巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
348		昭和美術館		ノガン	3	右羽	次列風切	直	△大	280	187	93	無	無班白	右巻	下	左膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
349		昭和美術館		ノガン お多福	3	右羽	三列風切	直	△大	295	205	95	4	(欠?)少多班	左巻	下	左膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
350		昭和美術館		ノガン お多福	3	右羽	三列風切	直	△大	290	200	90	19	多班	左巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
351		昭和美術館		ノガン お多福	3	右羽	三列風切	直	△小	340	250	90	無	多班	右巻	下	左膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
352		昭和美術館		ノガン	3	右羽	次列風切	下に曲	△小	330	240	90	無	多班	右巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
353		昭和美術館		ノガン	3	左羽	次列風切	下に曲	△小	320	228	92	無	多班	左巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
354		昭和美術館		ツル類やや剣先	3	右羽	三列?	直	△大	320	228	92	無	多班	右巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
355	壱ツ羽柄	昭和美術館	和斎作						上端六角、中心、下扁平八角	280	190	90	13	(欠)多班	右巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
356		昭和美術館		ノガン	3	左羽			△大	300	210	90	25	多班	右巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
357		昭和美術館		ノガン	3	右羽	次列～三列		△大	302	210	92	18	(欠)班あり	左巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
358		昭和美術館		ノガン	3	右羽	次列～三列		△小	320	228	92	無	多班	左巻	下	左右合せ接	紙襷太紐	下	紙襷太紐
359		昭和美術館		ノガン	3	左羽	次列～三列		△大	320	228	92	無	多班	左巻	下	左膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
360		昭和美術館		ワクワウ類	3	右羽	次列	直	△小	320	225	95	無	少班	左巻	下	右膝下折	紙襷太紐	下	紙襷太紐
361	羽書 野厂弍射	昭和美術館		ノガン	3	右羽		下に曲	△小	230	150	80	3	薄班	右巻	右中央	右折	竹皮襷紐	右中央	無
362	羽書 野厂弍射	昭和美術館		ノガン	3	左羽		下に曲	△小	230	150	80	3	薄班	左巻	左中央	左折	竹皮襷紐	左中央	無
363	青鷲	個人蔵	南斎作	アオサギ	3+	右羽	次列+胸羽	下に曲	△大	270	185	85	無	少班	右巻	下	左膝下折	竹皮襷紐	下	竹皮襷紐
364	青鷲 無心産	個人蔵	宗無作	ノガン	3	右羽			△大	243	153	90	3	微班	左巻	右中央	右折	竹皮襷紐	右中央	無
365		個人蔵		インコ類	3	右羽			△小	272	172	100	無	多班	右巻	右膝上	右折	細紙襷紐	右中央	無
366	鷲	個人蔵		ウ	3	左羽			△小	272	82	190	無	多班	左巻	左下微上	左折	細紙襷紐	左中央	無
367	楚雁羽書 巻双	23代田部長右衛門 田部美術館		セイランみ?	3	左羽	三列風切	直	△小	412	324	92	無	少班	左巻	下	左膝下折	紙襷紐	下	無
368	楚雁羽書 巻双	23代田部長右衛門 田部美術館		セイランみ?	3	右羽	三列風切	直	△小	415	324	94	無	少班	右巻	下	右膝下折	紙襷紐	下	無

*「名称」「伝来」「作者」「箱書」は箱書や伝来の呼称で必ずしも正確ではない。

*「もぎあげ」は、羽と柄の間の軸だけの部分のこと。